

学域名	医薬保健学域
学類名	保健学類
専攻名	看護学専攻

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

- 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。
- 医療人として自主的に学習し、その専門分野の知識・技術を活用できる。
- 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。
- 現代の多様な臨床ニーズに応える有効な医療看護を推進して患者中心の医療の担い手となる。以上の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士(看護学)、学士(保健学)の学位を授与する。

専攻のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

理念：看護学専攻は人間性を尊重し守ることを基盤に創造的に看護を実践し、社会における看護の役割を基とし、時代の要請に応えて看護学の新たな知識を創造し、技術を開発していくことができる人材育成を理念とする。目標：看護学の専門性を理解し、個人や集団の健康に貢献するための方法を実践・探求できる能力を持ち専門職者として自覚する人材育成とする。すなわち①時代と社会の要請に応える優れた看護提供者と看護技術の研究開発できる能力を有する人材を育成する。②卒業生には学士(看護学)と看護師、保健師の国家試験受験資格が取得できるので、総合的な健康の捉えかたをもちながら専門領域を深めることを目標とする。以上の人材養成目標に到達した者に学士(看護学)の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。

専攻のOP(カリキュラム編成方針)

専攻の学習成果 (◎=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)

看護学専攻では看護師課程(連修制)の統合カリキュラムに沿った科目を構成している。第1に看護の基礎を理解することから看護学への主体的な学習態度の確立からカリキュラムの土軸を構築している。次に各自目標の達成ができるための25の重点(具体的学習内容)を提示している。第3に学習内容の基礎から応用へ、理解から実践へと体系的に深化する教科目の配置と教育方法を工夫し学生が主体的に学習できるように支援する。	<b>I 対象となる人を含め人間的に捉える基本能力</b>	<b>II 群 ヒューマンケアの基に資する実践能力</b>	<b>III 群 保健に基づき看護を計画的に実践する能力</b>	<b>IV 群 特定の健康問題に対応する実践能力</b>	<b>V 群 多様なケア環境とチーム体制に資する実践能力</b>	<b>VI 群 専門職として研鑽し続ける基本能力</b>
---	-------------------------------	-------------------------------	----------------------------------	------------------------------	----------------------------------	------------------------------

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年					I	II	III	IV	V	VI			
			1	2	3	4	5									
16001	医薬保健学基礎Ⅰ	保健学類の5専攻の教育、研究の特徴を理解する。	1	*					◎							
16002	医薬保健学基礎Ⅱ	チーム医療における各職種の立場や役割を理解させる。	1		*				◎							
19008	学域OS言語科目Ⅱ	1.小グループにおいて、看護師として模擬患者や模擬家族のために言語的・非言語的手段を用いて積極的に英語でコミュニケーションを図れる。 2.小グループにおいて、看護師として英語の会話の中から模擬患者や模擬家族がどのようなことを看護師に伝えようとしているのか、捉えることができる。 3.英語でフィジカルアセスメントを模擬的に実施できる。	3	*				○	△				○			
13101	生体の構造	1.講義に促ってテキストを最初から最後まで読み通すことができる。 2.人体の解剖学名を覚えることができる。 3.人体の機能を遺伝子レベルから器官レベルまで、各器官間の関連として知ることができる。 4.正常を知ることが異常や病気を知ることの基礎となることを理解できる。 5.教員の説明を聞くことで、どのように考えるといいかを学ぶことができる。	1	*	*				◎				○	◎		
13102	生体の機能	1.講義に促ってテキストを最初から最後まで読み通すことができる。 2.人体の解剖学名を覚えることができる。 3.人体の機能を遺伝子レベルから器官レベルまで、各器官間の関連として知ることができる。 4.正常を知ることが異常や病気を知ることの基礎となることを理解できる。 5.教員の説明を聞くことで、どのように考えるといいかを学ぶことができる。	1	*	*				◎				○	◎		
23101	栄養・生化学	1.看護における栄養学の意義を理解する。 2.三大栄養素の代謝の概要を理解する。 3.疾病と栄養、健康維持と栄養の関連を理解する。 4.食事摂取基準の概要を理解する。 5.看護に必要な栄養評価・栄養管理計画を理解する。 6.疾患別の食事療法、栄養療法を理解する。 7.公衆栄養の基本的理念について理解する。	1	*	*				◎				△		○	
23102	精神看護論	人々の精神の健康(心の健康)を保持・増進により良い人間関係をつくるために、果たすべき看護の役割について学び、必要な知識と技能・態度を身に付ける。	1		*				◎					◎	○	◎
23103	人体機能学	1.講義に促ってテキストを最初から最後まで読み通すことができる。 2.人体の解剖学名を覚えることができる。 3.人体の機能を遺伝子レベルから器官レベルまで、各器官間の関連として知ることができる。 4.正常を知ることが異常や病気を知ることの基礎となることを理解できる。 5.教員の説明を聞くことで、どのように考えるといいかを学ぶことができる。	1			*	*		◎				○		◎	



学域名	医薬保健学域
学類名	保健学類
専攻名	看護学専攻

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養・専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。
  2. 医療人として自主的に学習し、その専門分野の知識・技術を活用できる。
  3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。
  4. 現代の多様な臨床ニーズに応える有効な医療看護を提供し、患者中心の医療の担い手となる。
- 以上の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士(看護学)、学士(保健学)の学位を授与する。

専攻のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

理念：看護学専攻は人間性を尊重し守ることを基盤に創造的に看護を実践し、社会における看護の役割を基とし、時代の要請に応えて看護学の新たな知識を創造し、技術を開発していくことができる人材育成を理念とする。

目標：看護学の専門特性を理解し、個人や集団の健康に貢献するための方法を実践・探求できる能力を持ち専門職者として自律する人材育成とする。すなわち①時代と社会の要請に応える優れた看護提供者と看護技術の研究開発できる能力を有する人材を育成する。②卒業生には学士(看護学)と看護師、保健師の国家試験受験資格を取得できること、総合的な健康の捉えかたをもちながら専門領域を深めることを目標とする。

以上の人材養成目標に到達した者に学士(看護学)の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。

専攻のOP(カリキュラム編成方針)

専攻の学習成果 (◎=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)

看護学専攻では看護師課程(選択制)の統合カリキュラムに沿った科目を構成している。第1に看護の基盤を理解することから生涯学習への主体的姿勢の習得まで履修の目標からカリキュラムの軸を構成している。次に各目標の達成ができるための25の要点(具体的学習内容)を提示している。第3に学習内容の基礎から応用へ、理解から実践へと準次的に深化する科目の配置と教育方法を工夫し学生が主体的に学習できるように支援する。	Ⅰ群 対象となる人を含人的に捉える基本能力	Ⅱ群 ヒューマンケアの基盤に関する実践能力	Ⅲ群 個別に基づき看護を計画的に実践する能力	Ⅳ群 特定の健康問題に対応する実践能力	Ⅴ群 多様なケア環境とチーム体制に関する実践能力	Ⅵ群 専門職として研鑽し続ける基本能力
---	-----------------------	-----------------------	------------------------	---------------------	--------------------------	---------------------

専攻のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	中期	後期	履修	1. 看護の対象となる人	2. 人間を生物学的に理解しアセスメントに活かす基本能力	3. 人間を生活者として理解しアセスメントに活かす基本能力	4. 人間を前向きに理解しアセスメントに活かす基本能力	5. 看護の対象となる人々との専断と協働する能力	6. 実践する意思決定を支援する能力	7. 協働的関係を形成する能力	8. 根拠に基づいた看護を提供する能力	9. 計画的に看護を実践する能力	10. 看護しべルを成長発達に促してアセスメントする能力	11. 個人と家族の生活をアセスメントする能力	12. 地域の特性と健康課題をアセスメントする能力	13. 看護援助技術を適切に実施する能力	14. 健康の維持増進と疾病を予防する能力	15. 急激な健康状態にある個人を援助する能力	16. 慢性・不特定の健康課題を有する個人を援助する能力	17. エンドオブライフにある人と家族を支援する能力	18. 地域で生活しながら養育する人と家族を支援する能力	19. 保健師養成課程における看護の質を改善する能力	20. 地域ケア看護職能の構築と実践を促す能力	21. 安全なケア環境を提供する能力	22. 安全なケア環境を構築する能力	23. 保健師養成課程の一員として協働し連携する能力	24. 社会の動向と科学技術の発展を踏まえ看護を前進させるための基礎となる能力	25. 生涯にわたって研鑽し続ける専門職としての態度と専門性を向上させる能力	26. 看護専門職としての研鑽し続ける基本能力			
								45103	保健医療福祉概論	1. 関連法令・制度等が成立した歴史的背景を理解できる。 2. 関連法令・制度等の枠組みや関連性についての基礎的知識を習得できる。 3. 現行法、制度等が抱える課題について理解できる。 4. 現行法、制度等における看護職の役割を考察できる。	2		*				◎								◎								◎			
45104	健康教育論	1. 健康問題を引き起こす原因とその相互作用の中で構造的に捉えることの重要性を認識し、健康と生活を通じた条件について考える。 2. 健康教育理論の発展過程を学び、健康問題に関する課題や教育の動向の推移及び代表的な健康教育関連理論を理解する。 3. 個人が健康上の問題を認識し、生活を支えていくプロセスを学び、健康への認識、態度、行動変容を促進するための学習の条件とそれを支援する教育のあり方を考える。 4. 生活習慣病を中心に、ライフスタイル支援を行ううえで必要となる課題と実践の方法を学ぶ。 5. 指導者の働き方と媒体の活用方法や教育技法など、健康教育の展開に必要な知識と技術を理解する。 6. 地域における健康教育の実践について理解する。 7. 健康教育の評価の方法について理解する。	2			*			◎				○				◎								◎											△
45105	疫学・保健統計学	1. 疫学の概念と調査方法を理解する。 2. 疾病発生と感染のメカニズムを理解する。 3. データ解析の基本を修得する。 4. マススクリーニングの原理と方法を理解する。 5. 主要疾患の疫学について修得する。 6. 最新の保健統計情報を理解する。	2	*	*				◎				◎					◎					○				○									◎
45109	日常生活援助論	以下に挙げる基本的な日常生活行動を理解し、個人に必要な看護援助を考察できる。 1. 食と排泄 2. 身体と衣 3. 活動と休息 4. 環境調節 5. 呼吸・循環・体温	2	*	*								◎					◎					◎			◎										◎
45110	療養行動援助論	1)療養行動に関連する語句が理解できる。 2)健康障害への治療や検査を理解できる。 3)健康障害を持った時に共通するニーズがあることを理解できる。 4)看護とライフサイクルについて理解できる。	2	*					◎				◎					◎					◎			◎										◎
45115	急性・手術期看護論	学習成果 1. 周手術期患者の看護を術前・術中・術後に分岐し、手術機材による生体の特異的な変化に適した看護方法を理解できる。 2. 急性患者看護において、身体アセスメント、環境の整え、家族への支援の看護方法を理解できる。	2			*			◎				◎				◎						◎			◎										◎
45116	慢性・終末期看護論	1. 紹介する慢性疾患患者の看護の実際を修得する。 2. 紹介する終末期患者の看護について修得する。 3. 終末期患者の看護から死生観と看護について考察する。 4. 家族看護について考察する。	2			*			◎				◎				◎						◎			◎										◎

学名	医療保健学
学部	保健学部
専攻	看護学専攻

学部のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

- 保健・医療・福祉分野に共通の教養と専門的知識・技術を修得し生涯教育を志向できる。
  - 医療人として自主的に学習し、その専門分野の知識・技術を活用できる。
  - 専門性を発揮して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。
  - 現代の多様な臨床ニーズに応える有効な看護実践を推進して患者中心の医療の担い手となる。
- 以上の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士(看護学)、学士(保健学)の学位を授与する。

専攻のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

理念「看護学専攻は人間性を尊重し守ることを基盤に創造的に看護を実践し、社会における看護の役割を基とし、時代の要請に応えて看護学の新たな知識を創造し、技術を開発していくことができる人材育成を理念とする。

目標「看護学の専門性を理解し、個人や集団の健康に貢献するための方法を実践・探求できる能力を持ち専門職者として自覚する人材育成とする。すなわち①時代と社会の要請に応える優れた看護提供者と看護技術の研究開発できる能力を有する人材を育成する。②卒業生には学士(看護学)と看護師、保健師の国家試験受験資格が取得できること、総合的な健康の捉えかたをもちながら専門領域を深めることを目標とする。

以上の人材養成目標に到達した者に学士(看護学)の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。

専攻のOP(カリキュラム編成方針)

専攻の学習成果 (◎=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)

看護学専攻では看護師課程(選抜制)の組み合わせカリキュラムに沿った科目を構成している。第1に看護の基盤を理解することから先導学習への主体的姿勢の習得まで履修の目標からカリキュラムの主軸を構成している。次に各自履修の達成できるための25の重点(具体的学習内容)を提示している。第3に学習内容の基礎から応用へ、理解から実践へと準次的に深化する科目の配置と教育方法を工夫し学生が主体的に学習できるように支援する。	<b>I 対象となる人を念人的に捉える基本能力</b>	<b>II 幹 ヒューマンケアの基盤に関する実践能力</b>	<b>III 幹 個に基く看護を計画的に実践する能力</b>	<b>IV 幹 特定の健康課題に対応する実践能力</b>	<b>V 幹 多様なケア環境とチーム体制に調する実践能力</b>	<b>VI 幹 専門職として研鑽し続ける基本能力</b>
---	-----------------------------	--------------------------------	--------------------------------	------------------------------	----------------------------------	------------------------------

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年				I	II	III	IV	V	VI		
			前期	中期	後期	修業								
45119	小児看護論	1.小児看護の特性を理解できる。 2.小児の発達上の特徴や家族のニーズを踏まえ、子どもの健康状態や入院が、子どもや家族へどのような影響を及ぼすかを考えることができる。 3.健康障害を持つ子どもの発達を保障する看護介入と家族への支援の在り方について考察できる。	2	○				◎				◎		
45120	母性看護論	1.母性看護の対象理解に基づき、ウエルネスを促す看護が理解できる。 2.母乳吸移行および家族後継移行的段階における支援方法について理解できる。 3.母性看護の役割と機能が理解でき、母性看護のあり方について考察する。	2				◎					◎		
45121	精神看護論	ノーマライゼーションの理念を理解し、精神に障害を持っている人々をサポートするために、果たすべき看護の役割について学び、必要な知識と技術、態度を修得することができる。	2				◎					◎		
45170	地域診断と看護活動	1.地域診断に必要な理論を理解できる。 2.地域診断に必要な資料を選択し、収集ができる。 3.診断に必要なデータの基本的な加工、読み取りができる。 4.データに基づき、地域の特性を踏まえた健康課題を考えることができる。 5.地域診断と保健活動との関連が理解できる。	2			*		◎				△		○
45122	地域看護概論	1.地域看護の概念について発展過程を踏まえて理解できる。 2.保健医療福祉システムの中での地域看護の役割と役割について理解できる。 3.地域看護活動における地域アセスメントについて理解できる。 4.地区看護を通して、地域アセスメントの視点を理解できる。 5.地域看護の活動の場と方法を理解できる。 6.地域看護の対象として、地域で暮らす人々のニーズを理解できる。	2	*	*			◎				◎		○
45123	家族看護論	1. 家族についての理解を深め、家族を単位とした看護の重要性について理解できる。 2. 家族看護における理論の応用に関する基礎的知識を修得できる。 3. 家族システム、発達、構造・機能、および家族関係の面から捉えることができる。 4. 家族看護過程と家族看護実践の基盤について理解できる。	2			*		◎				○		○
45172	疫学演習	1. 実際の保健統計情報の分析を通して、その特徴を把握する。 2. 全般的な健康状況やその推移を理解する。 3. 実証的な疫学研究を通して、疫学の必要性を認識する。	2			*		◎				◎		○
45124	疫学統計演習	1. 疫学研究で活用される調査方法を理解する。 2. 罹患率・有病率の算出方法を修得する。 3. 比率の差の検定について理解する。 4. 平均値の差の検定について理解する。 5. 分散の差の検定について理解する。	2			*		○				△		○



学域名	医薬保健学域
学類名	保健学類
専攻名	看護学専攻

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	専攻のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<ol style="list-style-type: none"> <li>保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。</li> <li>医療人として自主的に学習し、その専門分野の知識・技術を活用できる。</li> <li>専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。</li> <li>現代の多様な臨床ニーズに応える有効な医療看護を提供して患者中心の医療の担い手となる。以上の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士(看護学)、学士(保健学)の学位を授与する。</li> </ol>	<p>理念：看護学専攻は人間性を尊重し守ることを基盤に創造的に看護を実践し、社会における看護の役割を果たし、時代の要請に応えて看護学の新たな知識を創造し、技術を開発していくことができる人材育成を理念とする。</p> <p>目標：看護学の学際特性を理解し、個人や集団の健康に貢献するための方法を実践・探求できる能力を持ち専門職者として自律する人材育成を図る。すなわち①時代と社会の要請に応える優れた看護提供者と看護技術の研究開発できる能力を有する人材を育成する。②卒業生には学士(看護学)と看護師、保健師の国家試験受験資格が取得できるので、総合的な健康の提えたをもちながら専門領域を深めることを目標とする。</p> <p>以上の人材養成目標に到達した者に学士(看護学)の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。</p>

専攻のOP(カリキュラム編成方針) 専攻の学習成果 (◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)

看護学専攻では看護師課程(選択制)の統合カリキュラムに沿った科目を構成している。第1に看護の基盤を理解することから看護学への主体的姿勢の習得まで既習の科目からカリキュラムの主軸を構成している。次に各目標の達成ができるための25の要点(具体的学習内容)を提示している。第3に学習内容の基礎から応用へ、理解から実践へと体系的に深化する科目の配置と教育方法を工夫し学生が主体的に学習できるように支援する。	I 対象となる人を含め人に関する基本能力	II 群 ヒューマンケアの基盤に関する実践能力	III 群 保健に関与する看護を計画的に実践する能力	IV 群 特定の健康課題に対応する実践能力	V 群 多様なケア環境とチーム体制に関する実践能力	VI 群 専門職として研鑽し続ける基本能力
---	----------------------	-------------------------	----------------------------	-----------------------	---------------------------	-----------------------

専攻のカリキュラム		1. 看護の対象となる人	2. 人間を生物学的に理解し、健康を包括的に理解する基本能力	3. 人間を生活者として理解し、ケアに活かす基本能力	4. 人間を前向きに理解し、ケアに活かす基本能力	5. 看護の対象となる人々の専断と権利を尊重する能力	6. 実践する看護を説明し意思決定を支援する能力	7. 援助的関係を形成する能力	8. 根拠に基づいた看護を提供する能力	9. 計画的に看護を実践する能力	10. 看護しべを成長発達に即してアセスメントする能力	11. 個人と家族の生活をアセスメントする能力	12. 地域の特徴と健康課題をアセスメントする能力	13. 看護援助技術を適切に実施する能力	14. 健康の維持増進と疾病を予防する能力	15. 急激な健康転換と回復を援助する能力	16. 慢性・不可逆的健康課題を有する人を援助する能力	17. エンドオブライフにある人と家族を援助する能力	18. 地域で生活しながら養育する人と家族を援助する能力	19. 保健師養成課程における看護の質を改善する能力	20. 地域ケア看護職能の充実を図る能力	21. 安全なケア環境を提供する能力	22. 保健師養成課程チームの一員として協働し連携する能力	23. 社会の動向と科学技術の発展を踏まえ看護を前進させるための基礎となる能力	24. 生涯にわたって継続して専門的能力を向上させる能力	25. 看護専門職としての研鑽と専門性を発展させる能力		
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	中期	後期	前期	中期	後期	前期	中期	後期	前期	中期	後期	前期	中期	後期	前期	中期	後期	前期	中期	後期	前期	中期	後期	
45113	小児看護対象論	1. 子どもの発達を援助するために我が国の児童観、西欧の児童観の差を理解する。 2. 親子関係(愛着、アタッチメント)が子どもの心や体に及ぼす影響について理解する。 3. 子どもの発達を身体的・精神的・社会的・法的側面から理解する。 4. 以上を統合し、子どもや小児を取り巻く環境のあり方について考察する。	2		*			◎																				
45176	小児疾病論	小児疾患の病態を理解し、看護に必要な医学知識を修得する。	2			*																						
45177	母性疾病論	母性疾患の病態を理解し、看護に必要な医学的知識を修得する。	2			*																						
45111	成人看護対象論	1. 成人期におけるライフサイクルの特徴と生活や健康に及ぼす影響について理解する。 2. 成人期の看護としての急性期、慢性期、慢性期看護および災害看護の概要を理解する。 3. 成人看護に必要な理論について理解し、活用できる。	2		*																							
45106	成人疾病論	各器官の解剖と生理機能に関する知識を基礎として、成人疾患の病態生理、診断、治療を、内科的・外科的視点から学ぶ。	2			*	*																					
45108	精神老年運動器疾病論	1. 精神疾病論：精神科看護に必要な精神疾患に関する病態および精神科変換、精神障害者の人権と生活を支えるための必要な知識を修得する。 2. リハビリテーション疾病論：脳血管障害、運動器疾患などリハビリテーションの対象疾患についての基礎知識の習得。およびこれら疾患により生じる機能障害、能力低下、社会的不利を理解する。 3. 高齢者・成人疾病論(内科系)：各器官の解剖と生理機能に関する知識を基礎として、疾患の病態生理、診断、治療を老年医学的・内科的視点から学ぶ。	2			*	*																					
45114	母性看護対象論	1. 母性看護の主要概念、女性のライフステージおよび家族の発達段階、対象の特性について理解できる。 2. 妊娠・分娩、新生児の対象の特性に合わせたケアについて考えられる基礎的な知識を修得する。	2		*																							

学域名	医業保健学域
学類名	保健学類
専攻名	看護学専攻

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	専攻のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質・専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。 2. 医療人として主体的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。 3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。 4. 現代の多様な臨床ニーズに応える有効な医療看護を提供して患者中心の医療の担い手となる。 以上の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士(看護学)、学士(保健学)の学位を授与する。	理念：看護学専攻は人間福祉を尊重し守ることを基盤に創造的に看護を実践し、社会における看護の役割を果たし、時代の要請に応えて看護学の新たな知識を創造し、技術を開発していくことができる人材育成を理念とする。 目標：看護学の専門特性を把握し、個人や集団の健康に貢献するための方法を実践・探求できる能力を持ち専門職者として自律する人材育成をする。すなわち①時代と社会の要請に応える優れた看護提供者と看護技術の研究開発できる能力を有する人材を育成する。②卒業生には学士(看護学)と看護師、保健師の国家試験受験資格を取得できること、総合的な健康の捉えかたをもちながら専門領域を深めることを目標とする。 以上の人材養成目標に到達した者に学士(看護学)の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。

専攻のOP(カリキュラム)編成方針

看護学専攻では看護師課程・保健師課程(選択制)の統合カリキュラムに沿った教科目を構成している。第1に看護の基盤を理解することから生涯学習への主体的姿勢の習得まで視野の目標からカリキュラムの軸を構築している。次に各自履の達成ができるための25の重点(具体的学習内容)を提示している。第3に学習内容の基礎から応用へ、理解から実践へと体系的に深化する教科目の配置と教育方法を工夫し学生が主体的に学習できるように支援する。	専攻の学習成果 (◎=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
	<b>I 群 対象となる人を人々に伝える基本能力</b> <b>II 群 ヒューマンケアの基盤に関する実践能力</b> <b>III 群 実践に基づき看護を計画的に実践する能力</b> <b>IV 群 特定の健康問題に対応する実践能力</b> <b>V 群 多様なケア環境とチーム体制に関する実践能力</b> <b>VI 群 専門職として研鑽し続ける基本能力</b>

専攻のキャリアシーム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年					I 群	II 群	III 群	IV 群	V 群	VI 群
			前期	中期	後期	前期	後期						
45117	老年・リハビリテーション看護論	1. 老年看護の理念や関連する理論および看護の役割について説明できる。 2. リハビリテーション看護の理念、関連する理論、対象、看護の役割について説明できる。 3. 高齢者に特有の健康問題を有する患者およびその家族のニーズを把握し、看護実践の維持・生活の再構築をめざした老年・リハビリテーション看護について説明できる。 4. 老年・リハビリテーション看護の学際を通して、高齢者の生きがいや最後までその人らしくとは何かなど生活の質を考察できる。											
45112	老年看護対象論	1. 「老い」「老年期」の意味を考えるとより自身の高齢者観を認識する。老年期を生きる人々にとって、より生活の質(QOL)の高い環境とは何か、自己の役割について考え、説明することができる。 2. 様々な加齢現象について、からだ・心・こころ・かわり・生きがい・生活史の側面からどのような特徴がみられるのか説明することができる。そのうえで、どのような看護上の留意点があるのか考察したことを説明することができる。 3. 高齢者の生活を支える看護とは何か、生活機能の視点の全体像を理解したうえで、「清潔・身じたく」活動と体息」「コミュニケーション」の観点から説明することができる。 4. 高齢者のケアシステム、家族のライフサイクルと健康、高齢者の尊厳と倫理的課題について理解し、老年・リハビリテーション看護への展望について説明することができる。											
45128	看護研究概論	1. 看護における研究の重要性を理解できる 2. 研究課題に沿った研究デザインの選定について理解できる 3. 看護研究目的にそった、文献検索(情報リテラシー)ができる 4. データ解析の手法が理解でき、その結果を論理的に解釈できる 5. 看護研究の一連のプロセスと研究倫理が理解できる 6. 必要な研究プレゼンテーションがイメージできる											
45129	成人看護技術演習	1. 急性期・手術期、慢性期、終末期にある成人に必要な看護技術の手法を実施することができる 2. 急性期・手術期、慢性期、終末期にある成人の特徴および看護について説明することができる 3. 急性期・手術期、慢性期、終末期にある成人の看護過程の事例展開をすることができる											
45131	小児看護技術演習	1. 健康な子どもとの関わり体験を通して、子どもの発達の特徴や関わり方、生活環境について理解を深めることができる 2. 子ども発達段階をふまえた、小児に特有な看護技術を取得する。 3. 健康障害により入院している子どもの事例を用いて、子どもと家族の状況を十分に理解し(対象理解)、看護過程を展開できる。											
45132	母性看護技術演習	1. 既習の知識(「小児母性学概論」)「母性対象論」「母性看護論」を活用しながら看護過程の展開を修得する。 2. マタニティステージ各期の母子のケアに必要な看護技術を修得する。											

学域名	医薬保健学域
学類名	保健学類
専攻名	看護学専攻

<b>学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)</b> 1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。 2. 医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。 3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。 4. 現代の多様な臨床ニーズに応える有効な医療看護を提供して患者中心の医療の担い手となる。 以上の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士(看護学)、学士(保健学)の学位を授与する。	<b>専攻のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)</b> 理念：看護学専攻は人間福祉を尊重し守ることを基盤に創造的に看護を実践し、社会における看護の役割を基とし、時代の要請に応えて看護学の新たな知識を創造し、技術を開発していくことができる人材育成を理念とする。 目標：看護学の専門性を理解し、個人や集団の健康に貢献するための方法を実践・探求できる能力を持ち専門職者として自律する人材育成とする。すなわち①時代と社会の要請に応える優れた看護提供者と看護技術の研究開発できる能力を有する人材を育成する。②卒業生には学士(看護学)と看護師、保健師の国家試験受験資格が取得できるので、総合的な健康の捉えかたをもちながら専門領域を深めることを目標とする。 以上の人材養成目標に到達した者に学士(看護学)の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。
--	---

専攻のOP/カリキュラム編成方針 専攻の学習成果（◎=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目）

<b>看護学専攻では看護師課程(選抜制)の統合カリキュラムに沿った科目を構成している。第1に看護の基盤を理解することから看護学専攻への主体的修得の管理で看護の目標からカリキュラムの軸を構築している。次に各自履修ができるための25の要点(具体的学習内容)を提示している。第3に学習内容の基礎から応用へ、理解から実践へと体系的に深化する科目の配置と教育方法を工夫し学生が主体的に学習できるように支援する。</b>	<b>Ⅰ群 対象となる人を中心に捉える基本能力</b>	<b>Ⅱ群 ヒューマンケアの基盤に関する実践能力</b>	<b>Ⅲ群 保健に関与する看護職を計画的に実践する能力</b>	<b>Ⅳ群 特定の健康問題に対応する実践能力</b>	<b>Ⅴ群 多様なケア環境とチーム体制に関する実践能力</b>	<b>Ⅵ群 専門職として研鑽し続ける基本能力</b>
--	-----------------------------	------------------------------	---------------------------------	----------------------------	---------------------------------	----------------------------

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年				Ⅰ群	Ⅱ群	Ⅲ群	Ⅳ群	Ⅴ群	Ⅵ群
			1	2	3	4						

45133	精神看護技術演習	精神に障害を持っている人々へのリハビリテーション(人間的復興)をサポートするために、果たすべき看護の役割について学び、必要な知識と技術、態度を修得することができる。	3		*	*										◎							
45134	急性・周手術期看護実習	1. 周手術期の患者を受け持ち、術前、術中、術後の看護について、看護過程の展開により理解する。 2. 急性期看護における働場について学ぶ。	3		*	*	*	*								◎							
45135	慢性・終末期看護実習	1. 慢性・終末期にあたる患者を受け持ち、患者ごとその家族への看護実践を展開し、経験することができる。 2. 慢性期・終末期にある患者に行われる看護について、正しい看護、課題、今後の展望などから考察することができる。 3. 継続的なケアとチームアプローチが必要になる患者に対する高階チームメンバーの役割を学ぶことができる。	3		*	*	*	*								◎							
45138	母性看護実習	1)妊婦・産婦・褥婦・新生児の生理的・心理的・社会的特長について、看護実践を通して理解できる。 2)妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護実践が展開できる。 3)母性看護領域における看護の特殊性および母子保健医療チームにおける母性看護者の役割を理解できる。	3		*	*	*	*								◎							
45139	小児看護実習	1.子どもや子どもを取り巻く環境を理解し、看護過程に沿って看護介入を考案することができる。 2.看護チームメンバーの一員としてのメンバーと協力できる。 3.実習を通して関わりを持った人々との相互作用により自己研鑽できる。 4.小児看護の実習を総合的に評価し、その特性を理解できる。	3		*	*	*	*								◎							
45140	精神看護実習	1. 精神障害の症状や状態の捉え方ならびに生きている実態をきめた対象の包括的理解をもとに看護技術を修得できる。 2. 患者とのコミュニケーションを通じ、自分自身のコミュニケーションスタイルを理解できる。 3. 自分自身のもつ精神障害に対する差別や偏見などを理解できる。 4. 精神科医療チームの協働関係と看護の役割を学ぶことができる。 5. 地域精神保健サービスの実際を体験し看護のあり方と将来の方向性について考察できる。	3		*	*	*	*								◎							
45167	看護サービスの組織化演習	1.看護倫理について再確認し、看護学生としてのあり方と責任、さらに社会から求められるニーズを理解する。 2.多職種・地域医療との協働における、チーム医療と病院で働く看護師としてのメンバーシップおよびリーダーシップについて理解する。 3.リスクマネジメント(感染予防・個人情報保護・医療事故防止)の必要性を理解し、具体的な行動を想起できる。	3		*	*										◎							



学域名	医薬保健学域
学類名	保健学類
専攻名	看護学専攻

学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）	専攻のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）
1. 保健・医療分野に共通の基礎的知識・技術を修得し生涯教育を志向できる。 2. 医療人として自主的に学習し、その専門分野の知識・技術を活用できる。 3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。 4. 現代の多様な臨床ニーズに応える有効な医療看護を提供して患者中心の医療の担い手となる。以上の能力を養出し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士（看護学）、学士（保健学）の学位を授与する。	理念：看護学専攻は人間福祉を尊重し守ることを基盤に創造的に看護を実践し、社会における看護の役割を果たし、時代の要請に応えて看護学の新たな知識を創造し、技術を開発していくことができる人材育成を理念とする。 目標：看護学の専門特性を理解し、個人や集団の健康に貢献するための方法を実践・探求できる能力を持ち専門職者として自衛する人材育成とする。すなわち①時代と社会の要請に応える優れた看護提供者と看護技術の研究開発できる能力を有する人材を育成する。②卒業生には学士（看護学）と看護師、保健師の国家試験受験資格が取得できるので、総合的な健康の捉えかたをもちながら専門領域を深めることを目標とする。 以上の人材養成目標に到達した者に学士（看護学）の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。

専攻のOP（カリキュラム）編成方針

専攻の学習成果		Ⅰ群 対象となる人を含む人に関与する基本能力		Ⅱ群 ヒューマンケアの場における実践能力		Ⅲ群 集団に基づき看護を計画的に実践する能力		Ⅳ群 特定の健康課題に対応する実践能力		Ⅴ群 多様なケア環境とチーム体制に関する実践能力		Ⅵ群 専門職として研鑽し続ける基本能力	
看護学専攻では看護師課程・保健師課程（選択制）の統合カリキュラムに沿った教科目を構成している。第1に看護の基礎を理解することから生涯学習への主体的姿勢の習得まで既習の目標からカリキュラムの主題を構成している。次に各自標の達成ができるための25の要点（具体的学習内容）を提示している。第3に学習内容の基礎から応用へ、理解から実践へと体系的に深化化する教科目の配置と教育方法を工夫し学生が主体的に学習できるように支援する。		1. 看護の対象となる人		2. 人間を生物学的に理解しアセスメントに活かす基本能力		3. 人間を生活者として理解しアセスメントに活かす基本能力		4. 人間を前向きに迎える能力		5. 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力		6. 実践する意思決定を支援する能力	
		7. 協働的関係を形成する能力		8. 根拠に基づいた看護を提供する能力		9. 計画的に看護を実践する能力		10. 健康しベテランを成長発達に促す能力		11. 個人と家族の生活をアセスメントする能力		12. 地域の特性と健康課題をアセスメントする能力	
		13. 看護活動の技術を適切に実施する能力		14. 健康の維持増進と疾病予防する能力		15. 急激な健康転換と回復過程にある人を援助する能力		16. 慢性・不可逆的健康課題を有する人を援助する能力		17. エンドオブライフにある人と家族を支える能力		18. 地域で生活しながら病気を支える人と家族を支える能力	
		19. 看護の質を改善する能力		20. 地域ケア連携の構築と実施する能力		21. 安全なケア環境を提供する能力		22. 保健師養成チームの一員として協働し連携する能力		23. 社会的向上と科学技術の発展を踏まえ看護を前進させるための基礎となる能力		24. 生涯にわたって研鑽し続ける専門職としての能力	
		25. 看護専門職としての能力を向上させる能力											

専攻のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	中期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
45130	老年・リハビリテーション看護技術演習	1. 高齢者の対象特性を理解し、必要な看護について説明することができる。 2. 高齢者の事例について健康問題、セルフケア能力、生活環境、生活過程などを総合的に把握して、高齢者のその人らしさに合わせた看護過程の展開を導くことができる。 3. 高齢者の生活機能障害に応じた看護技術を修得することができる。	3	*	*				◎			◎
45136	老年・リハビリテーション看護実習	実習目標1（1単位） 次の目標をとおして、高齢者の健康・生活支援や家族支援に必要な看護の理解を深める。 1) 高齢者が利用する医療・福祉施設の特徴、役割を説明できる。 2) 施設の特性を踏まえ、さまざまな職種役割・連携のあり方を説明できる。 3) 高齢者もしくは家族との対話などの施設実習および文献検索をとおして、高齢者の健康・生活支援や家族への実用における課題を抽出し、望ましい看護実践を立案し、実践が図れる。 実習目標2（2単位） 病院・高齢者ケア施設で入院・入所中の生活機能障害をもつ高齢者について、次の目標をとおしてその人らしさを尊重した個別性のある看護を展開できる。 1. 健康生活と高齢者やその家族を対象に、根拠をもって看護を展開できる。 2) アセスメントに基づき、高齢者のその人らしさに合わせた家族支援を適切な看護実践を立案し、実践が図れる。 3. 高齢者との相互交渉をとおして自己ヘルスプロモーションの理念に基づいた公衆衛生看護活動が理解できる。 4. 地域を単位とした看護の目的、対象の捉え方、看護方法の特徴が理解できる。 5. 公的機関における公衆衛生看護活動の機能と役割を理解できる。 6. 地域保健福祉計画の重要性としくみを理解し、保健計画の策定過程や予算の概算が理解できる。 7. 自治体における事業の企画、運営や評価の基本がわかる。 8. 地域の人々との協働による地域ケアシステムの構築および形成過程、方法が理解できる。 9. 地域におけるグループ結核化の重要性と実施方法について理解できる。 10. 地域における健康危機管理の特徴について理解を深め、保健活動の実現を想定した支援を考案することができる。	3	*	*	*	*		◎		◎	◎
45141	公衆衛生看護管理論	1. ヘルスプロモーションの理念に基づいた公衆衛生看護活動が理解できる。 2. 地域を単位とした看護の目的、対象の捉え方、看護方法の特徴が理解できる。 3. 公的機関における公衆衛生看護活動の機能と役割を理解できる。 4. 地域保健福祉計画の重要性としくみを理解し、保健計画の策定過程や予算の概算が理解できる。 5. 自治体における事業の企画、運営や評価の基本がわかる。 6. 地域の人々との協働による地域ケアシステムの構築および形成過程、方法が理解できる。 7. 地域におけるグループ結核化の重要性と実施方法について理解できる。 8. 地域における健康危機管理の特徴について理解を深め、保健活動の実現を想定した支援を考案することができる。	4	*	*				◎		◎	◎
45142	地域健康支援技術論	1. 健康増進を目的とした地域における看護支援について理解する 2. 一次予防および早期発見を目的とした地域における看護支援について理解する 3. 三次予防を目的とした地域における看護支援について理解する	4	*					◎		◎	◎

学域名	医療保健学域
学類名	保健学類
専攻名	看護学専攻

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	専攻のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<ol style="list-style-type: none"> <li>保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得し生涯教育を志向できる。</li> <li>医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。</li> <li>専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。</li> <li>現代の多様な臨床ニーズに応える有効な医療提供を推進して患者中心の医療の担い手となる。</li> </ol> 以上の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士(看護学)、学士(保健学)の学位を授与する。	理念：看護学専攻は人間尊厳を尊重し守ることを基盤に創造的に看護を実践し、社会における看護の役割を基とし、時代の要請に応えて看護学の新たな知識を創造し、技術を開発していくことができる人材育成を理念とする。 目標：看護学の専門性を理解し、個人や集団の健康に貢献するための方法を実践・探求できる能力を持ち専門職者として自律する人材育成をする。すなわち①時代と社会の要請に応える優れた看護提供者と看護技術の研究開発できる能力を有する人材を育成する。②卒業生には学士(看護学)と看護師、保健師の国家試験受験資格が取得できるので、総合的な健康の捉えかたをもちながら専門領域を深めることを目標とする。 以上の人材養成目標に到達した者に学士(看護学)の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。

専攻のOP(カリキュラム編成方針) 専攻の学習成果 (◎=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)

看護学専攻では看護師課程・保健師課程(選択制)の統合カリキュラムに沿った科目を構成している。第1に看護の基盤を理解することから看護学等の主体的姿勢の習得で看護の目標からカリキュラムの軸を構築している。次に各目標の達成ができるための25の要点(具体的学習内容)を提示している。第3に学習内容の基礎から応用へ、理解から実践へと体系的に深化する科目の配置と教育方法を工夫し学生が主体的に学習できるように支援する。	<b>Ⅰ群 対象となる人を含人的に捉える基本能力</b>	<b>Ⅱ群 ヒューマンケアの基盤に関する汎用能力</b>	<b>Ⅲ群 保健に関与する看護を計画的に実践する能力</b>	<b>Ⅳ群 特定の健康課題に対応する実践能力</b>	<b>Ⅴ群 多様なケア環境とチーム体制に関する実践能力</b>	<b>Ⅵ群 専門職として研鑽し続ける基本能力</b>
---	------------------------------	------------------------------	--------------------------------	----------------------------	---------------------------------	----------------------------

専攻のカリキュラム	1. 看護の対象となる人	2. 人間を生物学的に理解しアセスメントに活かす基本能力	3. 人間を生物学的に理解しアセスメントに活かす基本能力	4. 人間を生物学的に理解しアセスメントに活かす基本能力	5. 看護の対象となる人々との専断と権限を交渉する能力	6. 実践する看護を説明し意思決定を支援する能力	7. 協働的関係を形成する能力	8. 根拠に基づいた看護を提供する能力	9. 計画的に看護を実践する能力	10. 看護しべルを成長発達に応じてアセスメントする能力	11. 個人と家族の生活をアセスメントする能力	12. 地域の特性と健康課題をアセスメントする能力	13. 看護援助技術を適切に実施する能力	14. 健康の維持増進と疾病を予防する能力	15. 急激な健康転換と回復過程にある人々を援助する能力	16. 慢性・不可逆的健康課題を有する人々を援助する能力	17. エンディングケアにありあける人と家族を援助する能力	18. 地域で生活しながら養育する人と家族を援助する能力	19. 保健師課程・保健師課程における看護の質を改善する能力	20. 地域ケア実践の構築と看護職能の充実を図る能力	21. 安全なケア環境を提供する能力	22. 保健師課程・保健師課程の一員として協働し連携する能力	23. 社会の動向と科学技術の発展を踏まえ看護の質を向上させるための基礎となる能力	24. 生涯にわたる継続して専門的能力を向上させる能力	25. 看護専門職としての研鑽と専門性を発展させる能力
-----------	--------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	-----------------------------	--------------------------	-----------------	---------------------	------------------	------------------------------	-------------------------	---------------------------	----------------------	-----------------------	------------------------------	------------------------------	-------------------------------	------------------------------	--------------------------------	----------------------------	--------------------	--------------------------------	---	-----------------------------	-----------------------------

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
45172	地域健康支援技術各論	1. 健康増進を目的とした地域における保健師の支援技術について理解する。 2. 一次予防および早期発見を目的とした地域における保健師の活動について理解する。 3. 三次予防を目的とした地域における保健師の活動について理解する。																								
45143	在宅看護論	1.在宅看護の重要性、概念、対象、方法が理解できる。 2.在宅看護に関わる制度について理解できる。 3.在宅ケアプラン作成過程および在宅看護過程展開方法の基本を習得する。 4.対象別の在宅看護活動に必要な知識と技術の基本が理解できる。 5.訪問看護活動および在宅福祉サービスに必要な基本的技術についての理解を深める。 6.在宅介護家族を支えるケアサービス、災害時の危機管理、およびケアシステムにおける多職種間の連携について理解を深め、看護が果たす役割について考察できる。 7.在宅介護家族を支援するための訪問看護師・ケアマネジャーの活動の仕りに関して分析できる。	4	*	*																					
45144	地域アセスメント技術演習	1)地域特性や健康上の課題を把握する地域アセスメントの意義と必要性を説明できる。 2)既存データの収集方法やデータの持つ背景を理解できる。 3)政策的課題・他地域(県外も含む)との比較検討から変化や違いの要因を検討できる。 4)複数のデータを統合し、科学的根拠に基づいたアセスメントができる。 5)アセスメント内容を示すための適切な図表を作成できる。 6)担当自治体の地域特性、健康課題の概観を理解できる。 7)アセスメントの明確化や深化に必要な量的・質的データ傾向を探索的に考えることができる。 8)グループの一員として課題解決のために必要な、協働性やリーダーシップの重要性を理解し、自己の役割を遂行できる。	4	*	*																					
45175	地域健康支援技術演習	1. 家庭訪問時の基本と注意事項を理解し、訪問時の準備とバイタルサイン測定が正確に実施・評価できる。 2. 家庭訪問や健康相談、保健指導等の場における、対象者とその家族の支援に必要な基本的面接・相談技術を理解する。 3. 対象者の健康状態や生活状況のアセスメントに必要な知識・技術を理解し、対象者・援助者双方が日常生活に溶け込む健康課題を把握できるような問診技術並びに、主体的な問題解決策を導くための基本的看護技術を理解する。	4	*	*																					

学域名	医薬保健学域
学類名	保健学類
専攻名	看護学専攻

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	専攻のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<ol style="list-style-type: none"> <li>保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。</li> <li>医療人として自主的に学習し、その専門分野の知識・技術を活用できる。</li> <li>専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。</li> <li>現代の多様な臨床ニーズに応える有効な医療看護を推進して患者中心の医療の担い手となる。</li> </ol> 以上の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士(看護学)、学士(保健学)の学位を授与する。	理念：看護学専攻は人間福祉を尊重し守ることを基盤に創造的に看護を实践し、社会における看護の役割を基とし、時代の要請に応えて看護学の新たな知識を創造し、技術を開発していくことができる人材育成を理念とする。 目標：看護学の学際性を増進し、個人や集団の健康に貢献するための方法を実践・探求できる能力を持ち専門職者として自律する人材育成とする。すなわち①時代と社会の要請に応える優れた看護提供者と看護技術の研究開発できる能力を有する人材を育成する。②卒業生には学士(看護学)と看護師、保健師の国家試験受験資格が取得できるので、総合的な健康の提えたかたをもちながら専門領域を深めることを目標とする。 以上の人材養成目標に到達した者に学士(看護学)の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。

専攻のOP(カリキュラム編成方針) 専攻の学習成果 (◎=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)

看護学専攻では看護師課程(選択制)の統合カリキュラムに沿った教科目を構成している。第1に看護の基礎を理解することから看護学専攻への主体的な学習の姿勢を促すカリキュラムの注目を掲載している。次に各目標の達成が可能な25の重点(具体的学習内容)を提示している。第3に学習内容の基礎から応用へ、理解から実践へと準次的に深化する教科目の配置と教育方法を工夫し学習者が主体的に学習できるように支援する。	I 群 対象となる人を中心に捉える基本能力	II 群 ヒューマンケアの基に資する実践能力	III 群 保健に関与する看護を計画的に実践する能力	IV 群 特定の健康課題に対応する実践能力	V 群 多様なケア環境とチーム体制に資する実践能力	VI 群 専門職として研鑽し続ける基本能力
--	-----------------------	------------------------	----------------------------	-----------------------	---------------------------	-----------------------

専攻のカリキュラム		1. 看護の対象となる人を中心に捉える基本能力				II 群 ヒューマンケアの基に資する実践能力				III 群 保健に関与する看護を計画的に実践する能力				IV 群 特定の健康課題に対応する実践能力				V 群 多様なケア環境とチーム体制に資する実践能力				VI 群 専門職として研鑽し続ける基本能力	
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	中期	後期	前期	中期	後期	前期	中期	後期	前期	中期	後期	前期	中期	後期	前期	中期	後期	前期	後期
45145	在宅看護技術演習	1. 家庭訪問時の基本と注意事項を理解して、視覚的・聴覚的等の指導に必要な基本的知識と技術を修得できる。 2. 在宅看護者または要介護者の日常生活の自立能力を高めると同時に、援助に必要な基本的看護技術を修得できる。 3. 自助具、在宅介護用品等の基本的な取り扱い方法を修得し、さらに開発力と応用力を高めることができる。 4. 在宅看護過程の展開における知識と実践の専門技術を高めることができる。 5. 在宅での医療処置技術と物品の基本的取り扱い方法を修得できる。 6. 予防的視点に立った援助技術を修得できる。	4																				
45146	看護研究	1. 看護研究の目的にそって計画書を作成し実行できる。 2. 研究方法、研究のプロセスを理解し、研究内容に沿った計画を実行できる。 3. データ解析の実際が理解でき、その結果を論理的に記述できる。 4. 研究成果を発表し、論文作成の実際を実行できる。	4	*	*	*																	
45171	ヘルスプロモーション実習	1. 事業所固有の労働者の業務の特色と安全衛生結構・機構について理解する 2. 事業所における衛生管理の実際について理解する 3. 事業所における看護職の職務の実際について理解する			*	*																	
45147	公衆衛生看護実習	1. 地域の人々の生活と健康をアセスメントし、健康課題を洗い出すことができる。 2. 地域の健康課題に基づいて保健事業が計画・展開されていることが理解できる。 3. 個人・家族を対象とした公衆衛生看護活動の展開と支援方法を学ぶ。 4. 集団・地域を対象とした公衆衛生看護活動の展開と支援方法を学ぶ。 5. 保健行政機関の職能及び関係機関との連携・協働における保健師の役割が理解できる。 6. 公衆衛生看護活動の理念を理解し、専門職として主体的・継続的に学ぶことができる。	4	*	*	*																	
45148	在宅看護実習	1. 訪問看護活動を体験して、個別的な在宅看護計画の作成と実施、および基本的な在宅看護技術を修得できる。あるいは、通所介護利用者のケアマネジメントと、通所介護活動を体験して、個別的な在宅ケアプランの作成とケアサービスの提供、および介護現場における基本的な看護技術を修得できる。 2. 在宅の患者・要介護者と、その家族を支援する地域ケアシステムについての理解を深めることができる。 3. 在宅の患者・要介護者と、その家族にととの在宅介護の環境と介護に伴う負担を学び、在宅看護活動の対象者への理解を深めることができる。	4																				

